

狭山エリア新聞

【問合せ先】ASA狭山

Tel: 04-2952-2246

【発行所】狭山エリア新聞編集室

Tel: 049-265-1886

Fax: 049-265-1887

【記事提供】狭山CATV

狭山市入間川七夕まつり

8月7日・8日の2日間、狭山市入間川七夕まつりが開催されました。



今年は、3月に一部オープンした狭山市駅前と橋上駅舎となった駅を利用した初の開催となりました。

昨年までは、駅前から飾りつけが行われていましたが、開発工事のため中央公民館付近から飾りがあげられました。今年の飾りの数は、やらいが67本、竹飾り39本、合計106本。かざりは、商店をはじめ、企業や団体、子ども会や幼稚園や保育園などによるものです。毎年その年の世相を反映して作成されていますが、今年はサッカーや宇宙関連のもの、また、はやりのもので表現したものが見られました。

雨乞いのまつりともいわれ、例年雨降りに見舞われることの多いこのまつりですが、今年は、2日間とも好天に恵まれ、また、新しい駅の効果もあり例年より多くの人が訪れました。

駅前にはまつり本部が設けられ、まつりの安全な開催のために警備が強化されました。17時過ぎから19時45分開催の花火を見ようと、駅前の人の波が増え多くの人が会場へと流れていきました。安全を考慮し、エスカレーターの利用や駅前デッキの利用も規制され、市民デッキも通行止めになるなど万全の体制がとられ、今年も多くの人を楽しみました。

一おもしろサウンドの世界一 音のでるおもちゃ展



7月17日から9月5日まで狭山市立博物館では、平成22年度夏季企画展として「おもしろサウンドの世界」が開催されています。

これは、私たちの世界にあふれているさまざまな「音」について、遊んだり体験したりすることで、聞くだけでなく、「音」の持つたくさんの不思議に気づいてもらおうというものです。会場にはパイプの長さで音の高さがかわるパイプホンや、レバーを動かしたり風力で音が出るからくり楽器、いらなくなった紙筒で作られた太鼓などのリサイクル楽器や、世界の民族楽器などが展示されています。また、からくり楽器の動きや音の疑問についてのパネルも展示されており、音のふしぎについて学べるようになっています。展示品はほとんどが実際に触って音を出すことが出来るため、来場者はさまざまな楽器やおもちゃに触れ、音の出る仕組みを観察したり、音色を楽しんだりしていました。この企画展は、期間中は講演会やさまざまな工作教室などのイベントが行われる予定です。

菅原一丁目自治会納涼大盆踊り大会

7月31日(土)、JAいるま野狭山支店駐車場で、菅原一丁目自治会納涼大盆踊り大会が開催されました。

これは地域の活性化と地域住民の親睦を深めることを目的に毎年行われています。

今年はこの数年、少子化等により子ども達の参加が減少していることから活気を取り戻すため、子ども達が参加しやすい午後4時から「キッズ広場」というイベントを新たに設けました。

キッズ広場では、輪投げ・スーパースポールすくいやヨーヨーつり等が用意され、子ども達の人気を呼んで大勢が楽しんでいました。また、自治会員による模擬店も並びカキ氷、焼きそば、フランクフルトなどを販売。どの



模擬店も人の列ができて賑わいました。そして、6時半から納涼大盆踊り大会が行われました。

開会セレモニーでは、菅原一丁目自治会田島会長が「いよいよ大盆踊り大会を開催します。みなさんどうぞ楽しんで頂きます。夏の夜の一時を過ぎて頂ければと思います」と挨拶。

かすみ太鼓のメンバーが応援にかけつけ威勢のいい音を響かせていました。

寿会の民謡部会のメンバーを中心に太鼓の演奏にあわせて踊り、女子児童の可愛い浴衣、そして、民謡部会の女性達もそろいの浴衣姿で、祭りに花をそえ参加者はしばし祭りの雰囲気を楽しみました。次回開催について関係者は「来年は他の自治会の皆さんと一緒に」と大規模な、遠くから来た方でも楽しいと思えるような、盆踊りにしたいと思っています」と話しました。

この日はおよそ200人と昨年より多くの来場者が訪れ、祭を楽しみました。

古代にチャレンジ！「勾玉(まがたま)を作ろう！」

7月27日(火)、狭山市立第2児童館で、古代にチャレンジ！「勾玉(まがたま)を作ろう！」が開催されました。

これは夏休みに合わせ、4年ほど前から開かれている人気のイベントで、勾玉作りを通じて、古代の人々の生活を体験してもらおうというものです。



対象は小学生以上で今回は23名が参加。1・2年生には保護者が同伴しました。

講師は古代に造詣が深いボランティアの通称「なしめ」さんこと中山さん。

今回は、職場体験学習のため来館していた堀兼中学校2年生4名も作業を手伝いました。男子生徒は講師と同様に古代の国から訪れた設定になっているため、顔にペイントをし、衣装も付けて作業を手伝っていました。

はじめに講師から、勾玉は形が曲がっているのが「まがたま」と呼ばれていること、材料の石の種類や使用されている色、勾玉の使用方法などが説明されました。そして、水晶やガラス、ヒスイなどで出来た勾玉を見本として各テーブルにまわされると、子どもたちは興味深げに触れたり眺めたりしていました。

今回、勾玉作り

使用する石は、「滑石(ロウ石)」と呼ばれる柔らかく加工しやすい石で、石に勾玉の形を描いた後、不要部分をカットし、紐を通す穴を開けます。その後、目の粗さの違う3種類の紙ヤスリで磨き、形を作ります。

子どもたちは削られた石の粉で手を真っ白にしたが一生懸命磨きました。中には磨きすぎて、形が小さくなってしまつ子もいました。形が完成すると紐を通し、ビーズなどで裝飾しながら、オリジナルのネットクレスやブレスレットを作りました。児童館職員は「子どもたちが一生懸命作り、完成した勾玉を嬉しそうに身に付けているのでよかったです。来年もまた催したいです」と話しました。参加した子どもたちにとって、古代を垣間見る貴重な体験となりました。